



東京理科大学報

TUS *Journal*

Topics

2012年 年頭の言葉
理大祭 2011 開催

vol. **184**

2012年頭の言葉

困難な時代を切り抜ける
人間力を身につけた人材育成を

理事長 塚本 桓 屯

新 年明けましておめでとうございます。2012年の年頭にあたり、ごあいさつ申し上げます。

昨年、東北地方を襲った大震災とその後の原子力発電所事故、加えてユーロ不安等に起因する超円高による経済不安、首相交代等による政治不安など、わが国において危機的な一年でありました。本年も引き続き、多方面で難問に対処していかなければならない困難を伴う一年となることと思われまします。なぜなら、今、わが国が抱えている問題は、過去の経験から正解を導くことができるほど簡単ではないからです。震災復興についていえば、エネルギーや環境問題、防災や都市計画、被災者の健康問題にいたるまで、わが国の科学・技術力が多くの点で有効に働くであろうことは明らかであるとしても、被災された方々を含め多くの国民の心に訴えかける施策でなければ、それを推進することは難しいでしょう。

これは、少々見当はずれな言い方かもしれませんが、

「多体問題」を扱える人間力が必要とされる時代ということです。そのような能力を身につけるには、科学・技術の専門性に加えて、個々人の教養力が不可欠です。「教養」はマニュアルに無い事象に対して判断できる人材を育てる重要な素養です。われわれ理系人間は、ともすると専門は十分に鍛錬していても視野が若干狭いさらいがあります。教養の衰退は、学問の分化と専門化の進行による一般的な傾向かもしれません。しかしながら、次代の人材を育てる大学がそれを座視してはならないと考えます。昨秋、学長室が中心となり「総合教育機構」を立ち上げました。「総合研究機構」と対となり本学の教育・研究を推進する役割が期待される同機構において、教職支援やFD活動、教材の研究・開発等が行われる予定ですが、その中で新たな視点をもって「教養教育」にも取り組まれることを期待しております。

「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」との建学の精神を掲げ創設され130余年。21世紀を迎えた



この国難を乗り越えるには、幅広い教養を身につけた理系人材が社会で活躍することが求められており、本学の果たすべき社会的責務はかつてないほど重いものとなっております。そのような時代において、学生、教職員の皆さんにはそれぞれの分野で十分に研さんを積み重ね存分にその力を発揮いただきたいと思っております。

最後になりましたが、本学関係者のご多幸とご健勝を祈念し、新年のあいさつといたします。

10年後、20年後に
各界で活躍する
人材の輩出を

学長 藤 嶋 昭

**新** 年明けましておめでとうございます。

本学には素晴らしいシンボリックの校章があります。地球に届く太陽の光が、地球の重力で少し曲げられていることをモチーフにしたもので、多くの皆さまにご存知のとおりです。アインシュタインの一般相対性理論を証明した実験事実に基づくものです。明治14年に東京大学を卒業した21人の理学士によって創立されたわが東京理科大学にとって、誠にふさわしい校章だと思います。

さてアインシュタインといえば、1905年にブラウン運動の式、光電効果の式、そして特殊相対性理論の3つもの大論文を単名で発表し、今から7年前にはその100周年としていろいろなイベントがありました。このアインシュタインの一般相対性理論と特殊相対性理論を利用することで、今ではGPSの精度が上がり、ナビゲーションシステムも非常に効果的に利用されていることは周知のことです。科学技術の進歩やその一般社会での普及も、基本的原理が見出されてから、相当の時間を経て人々の生活を便利にしている例として私にとっては興味深いことです。

毎年の研究成果としてのOutputも大事ですが、やはり人類に役立つOutcomeとなるような研究成果を上げたいものと常に思っています。アインシュタインのこの相対性理論こそ、その例ではないかと思っています。もう少し前の研究者であるマイケル・ファラデーは、私のもっとも尊敬する研究者ですが、彼の電磁誘導の研究がなければ電気ができなかったわけでは

から、その偉大さに驚いております。

さて、わが東京理科大学からは毎年素晴らしい卒業生を世の中に送り出しています。4年間あるいは6年間の勉学によって得た本当に実力を持った若者が各界で大活躍している様子はいろいろな機会に知ることができます。卒業して10年後、20年後あるいは30年後の卒業生は、各界で重要な役目を担っています。誠にご同慶の至りです。今後も今までと同様、あるいはそれ以上に実力を備えた卒業生を出していけるよう教職員一同で頑張っていきたいと思っております。

葛飾の新キャンパスのオープンまで、1年余となりました。葛飾での授業や研究がスムーズに行えるよう、最大限の努力や工夫をしていきます。皆さまのご援助、ご協力をお願い申し上げます。新年のあいさつといたします。



創立当時の東京理科大学の前身である東京物理学校

新学部長・研究科長就任の言葉

「理学の普及」
の役割を担って

理学部第一部学部長 理学研究科研究科長 矢部 博



東 京理科大学は、131年目を迎え今年にはさらに躍進していこうとしています。理学部第一部は「理学の普及」を実現する中心的な役割を担っていますが、その伝統に甘んじることなく教育・研究の両面でさらに進化・発展していかなければなりません。このことを肝に銘じて、学部長・研究科長として理学部第一部・理学研究科のさらなる発展に貢献していきたいと思っております。ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は大震災、原発事故、台風災害などわが国は大きな打撃を受けました。安全・安心な生活にとっての科学技術のあり方とその役割が大きく問われています。そしてグローバル化した今日、金融危機をはじめとして一地域の惨事が世界中に影響するリスクが高くなってきました。しかしながらこうした不確実な時代だからこそ、自分の足元をしっかりと固めて、あきらめることなく前向きに進んでいく必要があると思っております。日本の復興・再生を強く信じています。

武田教授が副学長に就任

平 成24年1月1日付で薬学部薬学科の武田健教授が東京理科大学副学長に就任しました。任期は2年間。各副学長の担当業務は次のとおりです。

植木正彬 副学長
…総務・入試担当福山秀敏 副学長
…研究・国際化推進担当菊池正紀 副学長
…学生支援担当武田 健 副学長(新任)
…広報担当

武田 健 新副学長



理大祭 2011 festa!

本学の秋のビッグイベント「理大祭2011」が、神楽坂・野田・久喜の3キャンパスで開催されました。多くの来場者でにぎわった、学園祭の様をお届けします。



Kuki Campus 久喜

a. たこ焼きやキムチ鍋などさまざまに趣向を凝らした模擬店が並びました。b. 久喜市近隣の自治体の方々から振舞われた温かい手打ちそば。



Kagurazaka Campus 神楽坂

a. ミス理科大に輝いた経営学部2年小川あずささん。b. 体育館中が一体となって盛り上がった、ダンスサークルAQUARIUSのパフォーマンス。c. 来場者の小学生達を楽しませた、サイエンス夢工房の実験。d. 模擬店では、学生が思い思いのグルメを販売して大盛況に。

Noda Campus 野田

a. I 部体育局(野田)吹奏楽部による演奏。b. 10号館前で元気に踊るYosakoiソーラン部のメンバー



毎年恒例となる秋の大イベント「理大祭」が、久喜キャンパス(11月5日)を皮切りに、野田キャンパス(11月18~20日)、神楽坂キャンパス(11月19~20日)で開催されました。神楽坂キャンパスは19日(土)、20日(日)の2日間の開催。初日は大荒れの天気でしたが、日曜日は穏やかな晴天に恵まれ、12,000人の来場者でにぎわいました。各会場には、学生の父兄や卒業生たちに交じって小・中・高校生たちの姿も多くみられました。8号館で開催された「サイエンス夢工房」の会場で「自転車発電」を体験したと

いう小学4年生の男子は「テレビはすぐついたけど、電気ポットのお湯を沸かすのが大変だった。電気から熱をつくるのは効率が悪いなんだということがわかりました」とのこと。同行のお母さんは「理科の実験が好きなのなんです。街でポスターを見て『理科大の学園祭に行ってみよう』というので連れてきました。とても楽しそうな表情が見られたので、来てよかった。ぜひ来年も一緒に来たいと思います」

理科部に所属しているという高校2年生の女子2人組は「卒業後は理科系大学への進学

を志望しているので、キャンパスの雰囲気を知りたいと思って来てみました」とのこと。理科大生のイメージを聞いてみると、「成績優秀な“ガリ勉”のイメージを持っていましたが、実際は気さくで楽しい人が多かった。印象が変わりました」と話してくれました。

この日のメインイベントは、体育館で行われた「Miss Rikadai Contest 2011」。6月にノミネートされた6名の候補者たちが、思い思いのパフォーマンスで自己PRを行いました。投票の結果、ミス理科大に輝いたのは経営学部経営学科2年の小川あずささん。「私は久喜

キャンパスなのでアウェイでしたが、友達も大勢応援に来てくれてうれしかったです。自分は本当に多くの人に支えられているんだと感じることができました」と喜びを語ってくれました。

野田キャンパスでも、ペットボトルロケット大会やバルーンアート、フリーマーケットなど、さまざまな企画が開催されました。また、久喜キャンパスでは、オープンキャンパスも同時開催されており、学生の模擬店、ステージライブだけでなく、藤嶋昭学長の講演にもたくさんの方が訪れました。

名古屋進学相談会を開催

10月15日(土)、前年に引き続き、名古屋で愛知県、三重県、岐阜県および静岡県中・西部の高校生・保護者を対象とした進学説明会が開催され、多くの方の来場がありました。当日は、大学の概要説明のほか、理学部第一部数理情報科学科佐藤洋祐教授、理工学部電気電子情報工学科木村真一准教授による模擬講義や、工学部第一部工業化学科杉本裕准教授による模擬実験も行われました。

個別相談コーナーでは、大学の概要説明に参加し引き続き質問に訪れる方も多く、参加者の皆さんの進学に対する熱意がうかがえました。

また、同時に高校教員対象説明会も開催し、藤嶋昭学長のあいさつの後、植木正彬副学長による大学近況説明と岡村総一郎入試選抜検討委員会委員長による入試概況説明がありました。今年も、名古屋にて多くの方々に東京理科大学の情報を発信する予定です。



野田キャンパスで体育祭を開催

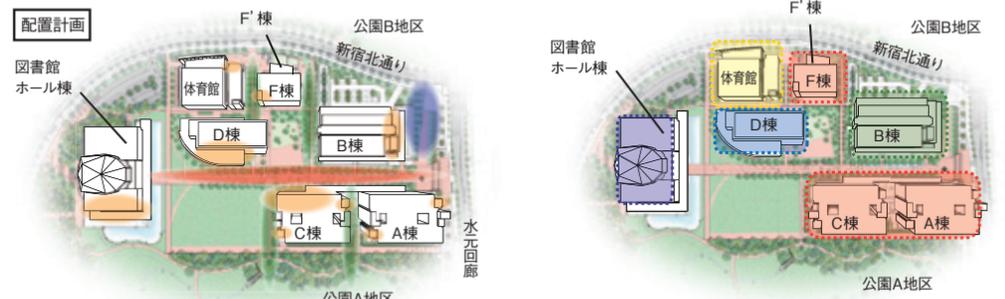
10月9日(日)に野田キャンパスで第61回東京理科大学体育祭が開催されました。当日は好天に恵まれ、気持ちの良い秋晴れの中、総合グラウンドで約800人の学生が所属学部に関係なく4つのチームに分かれ、「台風の日」「鉄人レース(障害物競走)」「騎馬戦」「追いかけ玉入れ」などの競技で熱戦を繰り広げました。最後に行われた「チーム対抗リレー」では教員や職員も参加し、学生と共に汗を流しました。優勝は団結力で勝った赤組。優勝がわかった瞬間、大きく歓声を上げ、互いの健闘をたたえ合っていました。閉会式終了後はグラウンドで夜祭が行われ、夕闇の中、



Topics

葛飾キャンパスオープンに向けて —葛飾キャンパスの現状—

平 成25年4月の葛飾キャンパスオープンに向けて、現在、建設工事が着々と進んでいます。その現状をご紹介します。第1工区（AC棟）は基礎・耐圧盤の躯体工事を継続しています。第2工区（B棟）は掘削工事を続けており、完了次第基礎躯体工事に着手します。第3工区（体育館・F棟・F'棟）は杭の打設工事を完了し、掘削工事に着手しております。第4工区（図書館・ホール棟）は基礎配筋・コンクリート打設を続けています。（11月29日現在）



●大学と地域の共有スペース

- キャンパスモール**
水元回廊から図書館・ホール棟に向けて並木が連続するキャンパスモールとし、地域の顔となるような印象的な景観を創出する。
- ガーデンパス**
公園同士をつなぐなど、地域の回遊性を高める抜け道空間を確保する。
- エントランス広場**
交差点に面する複数の街区の連結により地域の玄関口となる一体的なオープンスペースを確保する。
- 交流スペース**
キャンパスモールに沿って、各棟にラウンジ空間を配置し、知的交流の活性化を促すスペースとして利用する。キャンパスモールのアイストッとして、地域交流の拠点となる図書館・ホールを配置する。

●機能性を意識した建物配置

- 文化・交流機能**
図書館・ホール棟は、地域に開かれた図書館や、約600人収容のホール等を擁し、地域の文化・交流の拠点となることを目指す。
- 厚生・事務機能**
D棟には1~2階に食堂、3~6階に事務室を設置する。キャンパスモールに面し、学生と地域住民との交流の場を提供する。
- 研究機能**
A・C棟は研究機能の拠点として

- 4学部9学科の研究室（教員室）、実験室、ゼミ室等で構成される。F・F'棟は各学科から特殊な要件が求められる実験施設を集め、単独棟として計画する。
- 教育機能**
B棟には30人~260人収容の教室やターミナル室等を設置する。1階の一部には事務室も設置する。
- 体育・厚生機能**
体育館には大アリーナ・小アリーナ・部室を設置する。

葛飾キャンパス構想を明らかに 塚本理事長が葛飾区で講演

11月10日（木）にテクノプラザかつしか（葛飾区青戸）で、葛飾区と東京商工会議所葛飾支部共催で本法人塚本恒理事長の講演会が開催されました。

この講演会は本学と葛飾区における産学公連携の推進を目的に行われたもので、同区内の企業経営者、開発担当者など96人が参加しました。

講演会の中で塚本理事長は、葛飾キャンパスで実現したい項目として、「世界的教育研究拠点の確立」、「国際化推進」、「産学連携の強化」、「大学と街の一体化と協力関係の構築」、「地域住民に愛される大学」の5項目を挙げました。また、それら5項目に加え、葛飾区の小・中・高校と協力することで、同区を文教地区にしたいとの構想も明らかにしました。

講演会後の交流会では本学と地元企業との共同研究の可能性について活発な意見交換がなされ、今後の連携が期待されます。



葛飾キャンパスの構想を話す塚本恒理事長

平成23年度補正予算について

平 成23年度予算について、次の主な項目を盛り込んだ補正予算を編成しました。なお、平成23年度補正予算書は、本学ホームページをご参照ください。

- (1) 葛飾キャンパス二期取得予定用地の一部先行取得するための購入経費を予算計上すること。
- (2) 葛飾キャンパスD棟建設に伴う葛飾校舎新築工事を予算計上すること。
- (3) 東日本大震災被災学生に対する経済支援措置の実施に伴う奨学金支出を予算計上すること。
- (4) 野田キャンパスにおける各種工事および光触媒総合システム研究センター（仮称）新築工事に係る経費を予算計上すること。

平成24年に工学部が50周年

工 学部は昭和37年に創設され、平成24年には50周年を迎えます。そこで、これを記念し、平成24年5月20日（日）に、ホテルグランドパレス（東京都千代田区）で、記念式典・祝賀会を挙るとともに、記念誌の発行を進めています。記念式典・祝賀会には、500人程度の教職員、卒業生が参加して、これまでの50年の歴史を振り返り、工学部のますますの発展を祈念します。

詳細につきましては、以下のURLに最新の情報を載せていますのでご覧ください。

<http://www.50aniv.eng.tus.ac.jp/>



Prize

受賞一覧

東京理科大学学生の各種論文・研究発表等の受賞一覧（2011年07月～2011年11月）

受賞者（所属・学年は受賞時）	受賞名	大会・学会名	受賞テーマ等	受賞日
佐々山 茉莉	理工研・建築・修2	年次論文奨励賞	安全性と修復性を設計目標とした耐震設計法開発のための基礎的研究	2011/07/14
徳田 祐樹	工学研・機械工・修2	Best Oral Presentation Award	Effect of pre-heat treatment on wear property of DLC films coated by PBII&D	2011/08/22
松下 晃士	理工研・建築・修2	金賞	屋根の城	2011/08/30
紀平 望帆	基礎工研・生物工・修1	カールツァイス賞	歯胚発生をモデルとした時空間的な細胞動態の解析	2011/09/02
街 健太	理工研・電気工・修1	ヤングエンジニアポスターコンペティション(YPC)優秀発表賞	新スイッチングテーブルを用いた直接トルク制御によるスイッチトリラクタンスモータのトルクリプル低減	2011/09/07
赤星 ひかる	理工研・工化・修1	ポスター賞	鉄ボルフィリン錯体導入pH感受性ハイブリッドリボソームの調製とその抗癌作用	2011/09/08
鈴木 千裕	総化研・総化・修2	Gold Prize	Handmade Batteries to Know The Mechanism of Batteries	2011/09/11
石田 亮太		最優秀講演賞	四球式摩擦試験機を用いた植物油のトライボロジー特性評価に関する研究	
白戸 翔		優秀講演賞	ZnDTP,MoDTC 添加潤滑下におけるトライボフィルムの機械的性質の測定	
中野 彬	工学研・機械工・修1	優秀講演賞	CFDを用いた流体潤滑下での表面テクスチャによる異物のトラップに関する研究	2011/09/12
大嶋 健太		優秀講演賞	各種雰囲気下におけるDLC膜の摩擦・摩耗特性	
人見 尚弘	理工研・機械工・修1	優秀賞	小径玉軸受の寿命評価に関する研究、低コストセラミック球を用いた小径玉軸受の電食性能評価に関する研究	2011/09/12
藤井 央				
吉川 慧子	理学研・数情・修1	最優秀賞	MuPAT (Multiple Precision Arithmetic Toolbox)	2011/09/15
三浦 麻理子	理一・応化・4	優秀ポスター発表賞	Au助触媒を担持したSrTiO3光触媒による水分分解反応	2011/09/21
和藤 大鑑	総化研・総化・修2			
赤木 真	基礎工研・材料工・修1	エクセレント・ポスター賞	Fabrication of LSPR Sensor Using Porous Titania-Glass Composite Loading Au Nanoparticles by Photocatalytic Deposition Method	2011/09/21
河原崎 朋子	理工研・応生・博2	鈴木敏一メモリアル賞	シロイヌナズナの活性酸素産生酵素AtRbohA-Jの活性制御機構と機能分担	2011/09/22
三澤 潤	理工研・機械工・修2	ベストプレゼンテーション賞	玉軸受のグリス挙動とトルク及び温度上昇の関係	2011/09/22
清水 一真	基礎工研・材料工・修1	奨励賞	複合テンプレートをを用いた白金担持シリカの高規則性化	2011/09/29
早津 勇亮	基礎工研・材料工・修1	Best Poster Award		2011/09/30
安池 守	総化研・総化・修1	poster award	Orientation of hyperfine magnetic fields of α -iron films produced by laser deposition	2011/09/30
片山 泰志	工学研・電気工・修2	Best Student Award	High-Accuracy Gradient Based Motion Estimation Using High Frame-rate Images	2011/10/05
関 静香	薬学研・薬科学・修1	優秀賞	P2X7受容体阻害薬によるin vivo血管新生抑制効果	2011/10/08
岩村 直輝	薬学研・薬科学・修1	優秀賞	CYP3A4阻害活性物質Diaphorichalasinの全合成	2011/10/08
足達 雅史	理工研・機械工・修1	学生優秀発表賞	クラウニングピンを用いたローラチェーンのピン/ブッシュ摩擦軽減に関する研究	2011/10/21
濱 洋輔	理学研・数情・修2	優秀賞	シフト付きLR変換に付随する離散ハンチング系について	2011/10/28
渡部 司	工学研・機械工・修1	優秀ポスター賞	耐食性材料のフレッティング摩耗に関する研究	2011/11/05

People

2011 WINTER

優秀研究者賞

優れた研究業績を挙げた教員を表彰

学校法人東京理科大学は、教育職員の業績評価の結果に基づき、教育および研究の分野で特に優れた業績を挙げた教員に対し、特別表彰を行う制度を設けています。昨年7月に実施した業績評価において、研究分野の評価が特に高く、表彰に値すると認められる教員を「優秀研究者特別賞」、

評価実施時に39歳以下で、研究分野の評価が特に高く、表彰に値すると認められる教員を「優秀研究者奨励賞」として表彰することとしました。表彰式は12月14日(水)、神楽坂キャンパスで行われ、藤嶋昭学長から受賞者に表彰状が贈られました。

- 優秀研究者特別賞** 理学部第一部物理学科 教授…………… 本間 芳和
- 優秀研究者奨励賞** 理学部第二部数学科 助教…………… 田中 祝英子
- 理工学部教養 准教授…………… 市村 志朗
- 理工学部建築学科 准教授…………… 兼松 学
- 理工学部電気電子情報工学科 講師…………… 永田 肇



写真左から、永田講師、市村准教授、本間教授、田中助教(兼松准教授は在外研究中のため、後日事務局から表彰状が送付されました)

維持拡充資金(第二期) 寄付者芳名

「維持拡充資金(第二期)」にご賛同いただき、ご寄付をたまわった方々のご芳名を掲載します。今回は、2011年8月1日～10月31日までに振込みいただいた分です。ご芳名は区分別・金額別・五十音順ですが、区分で重複する方はいずれか一つに掲載させていただきました。累計は維持拡充資金(第二期)の寄付額です。

- | | | | | |
|--|--|--|---|---|
| 【個人】
(同窓生)
◇金5,500,000円
森野 義男 様
(累計金35,000,000円)
◇金300,000円
溝部 道信 様
(累計金350,000円)
◇金200,000円
宮川 照郎 様
(累計金300,000円)
山田 義幸 様
(累計金600,000円)
◇金150,000円
菅原 俊一 様
(累計金400,000円)
◇金100,000円
君塚 弘明 様
(累計金200,000円)
葛田 正雄 様
(累計金500,000円)
慶野 寛 様
武宮 利徳 様
(累計金130,000円)
三好 順耳 様
◇金50,000円
石井 智 様
(累計金750,000円)
遠藤 博 様
岡本 公爾 様
(累計金400,000円)
小林 勉 様
宮本 芳明 様 | ◇金30,000円
木下 知子 様
(累計金50,000円)
山崎 一信 様
(累計金70,000円)
匿名 1名
◇金20,000円
荻原 芳男 様
(累計金60,000円)
豊田 珍 様
守屋 茂 様
(累計金250,000円)
与那原 邦夫 様
(累計金40,000円)
匿名 1名
◇金10,000円
相原 寛 様
井原 泰恵 様
岡本 進 様
菊池 郭元 様
(累計金20,000円)
菊野 泰治 様
(累計金30,000円)
古藤 武彦 様
小林 茂人 様
鷗坂 健 様
(累計金20,000円)
佐藤 喜子 様
(累計金50,000円)
高澤 雅樹 様
林 陽一郎 様
松尾 武司 様
毛利 啓之介 様
(累計金30,000円) | 山崎 昭雄 様
(累計金20,000円)
横山 聡 様
匿名 3名
◇金6,000円
村松 和雄 様
(累計金71,000円)
◇金5,000円
伊藤 雅紀 様
小岩 美恵 様
(累計金32,000円)
近藤 正彦 様
◇金3,000円
笹倉 幸代 様
宮本 惲 様
(累計金13,000円)
匿名 1名
(父母保証人)
◇金200,000円
外山 直璋 様
◇金10,000円
阿部 信一 様
(累計金20,000円) | (元教職員)
◇金100,000円
菅原 崇光 様
匿名 1名
(教職員)
◇金300,000円
河村 洋 様
(累計金1,000,000円)
◇金150,000円
藤嶋 昭 様
(累計金3,450,000円)
◇金100,000円
小久保 正己 様
(累計金200,000円)
◇金60,000円
福山 秀敏 様
(累計金350,000円)
匿名 1名
◇金50,000円
小島 日出夫 様
(累計金60,000円)
藤野 仁三 様
(累計金350,000円)
◇金30,000円
宇津 栄三 様
(累計金690,000円)
大矢 雅則 様
(累計金70,000円)
衣笠 秀行 様
(累計金80,000円)
田中 芳夫 様
(累計金60,000円) | 友田 敬士郎 様
(累計金90,000円)
廣田 慶司 様
(累計金90,000円)
藤井 志郎 様
(累計金60,000円)
本山 好幸 様
(累計金50,000円)
匿名 2名
◇金20,000円
細尾 敏男 様
(累計金50,000円)
匿名 1名
◇金15,000円
原 泰志 様
(累計金85,000円)
増田 美智子 様
(累計金100,000円)
匿名 2名
◇金10,000円
匿名 1名
◇金6,000円
金田 和博 様
(累計金25,000円)
佐伯 政俊 様
(累計金58,000円)
◇金5,000円
匿名 1名
◇金3,000円
匿名 1名
【こうよう会】
◇金278,000円
個人 15名
(累計金67,327,295円) |
|--|--|--|---|---|

●入金額(2011年8月1日～2011年10月31日)
[個人] 9,174,000円(82名) [こうよう会] 278,000円(15名)

●2011年度寄付総額(2011年4月1日～2011年10月31日)
[個人] 73,595,327円 [法人] 11,350,000円
[団体] 707,123円 [こうよう会] 46,854,295円

問い合わせ先
東京理科大学
募金事業事務局
(TEL) 03-5228-8723
(FAX) 03-3260-4363
(e-mail) bokinjigy@admin.tus.ac.jp

秋の叙勲 平成23年の秋の叙勲で、次の先生が受章されました。

- 瑞宝中綬章** 工学部第一部電気工学科 元教授 関根 泰次
- 瑞宝小綬章** 学校法人東京理科大学 監事 岩片 古志郎

- 悼** 和達三樹 教授(理学部第二部物理学科) 平成23年9月15日逝去されました。66歳。
- 菅原崇光 本学名誉教授・元教授(理工学部教養) 平成23年9月21日逝去されました。76歳。
- 山口弘之 本学名誉教授・元教授(理学部第一部物理学科) 平成23年10月13日逝去されました。86歳。
- 松尾吉知 本学名誉教授・元教授(理学部第二部数学科) 平成23年11月12日逝去されました。95歳。

国家公務員I種試験合格者座談会

本年度、国家公務員I種の試験に合格した東京理科大学生は18人。今回はそのうちの5人に、合格に至る道のりについて語ってもらいました。

——国家公務員I種試験合格おめでとうございます。試験勉強は大変でしたか?
山本 教養試験に関しては独学で勉強しましたが、物理と数学が苦手だったので、大学が主催する公務員試験対策特別講座の「工学の基礎」を受けたのが非常に役立ちました。
谷口 理科大生であれば、教養・専門試験対策で、学外の専門学校などに通う必要はないと思います。実際、そういう人はほとんどいないと思います。
新谷 僕も勉強は授業だけで事足りると思います。ただ面接対策は必要ですね。僕は

そのために大学主催の講座を受講しました。
永島 僕は大学2年生の時から公務員ゼミに入っていました。
谷口・原 私たちもゼミ生です。
永島 今年度の理科大生合格者の約半数が公務員ゼミ出身だと聞いています。
谷口 国家公務員I種だけでなく公務員を進路に考えている人には、ゼミに入ることを強くおすすめします。多くの人と情報交換しながら勉強できるのは大きなメリットですから。
——官庁訪問(面接)はいかがでしたか?
新谷 僕は結構、門前払いをくらったりし

ましたね(苦笑)。
山本 面接が進むと、前回の面接を受けて自分の考えをいかに深めていったか、それを示すことが重要になってくるんですね。
谷口 1対1の面接が1時間続くこともある長丁場なので、面接はテクニックだけでは乗り越えられません。私たちから本音を引き出して、一緒に働くことができる相手かどうか先方は見極めていたように思います。
——最後に目指す公務員像をお願いします。
新谷 僕は自分の専門を生かして、特許審査などの仕事をコンピューターに任せる「自動化」を進めていきたいと思っています。
谷口 日本が誇る科学技術力を下支えして、国力を上げるお手伝いができればいいですね。
山本 誰もが活躍できる国をつくるために、国家の安全政策に貢献していきたいです。
原 公務員を退職するまでに「この点が良くなった」と言えるような仕事をしたいですね。
永島 公務員は民間の企業よりバッシングも多い大変な職場だと思っています。生半可な気持ちでなく真剣に仕事に向かい合いたいですし、これから試験を受ける後輩の皆さんにもそうあってほしいと思っています。
——皆様のご活躍を楽しみにしています。本日はありがとうございました。



新谷宗弘 (大学院) 理工学研究科 情報科学専攻 経済産業省 特許庁内定

谷口奈津子 工学部第一部 建築学科 文部科学省内定

山本亮太 理工学部 建築学科 防衛省内定

永島文洋 工学部第一部 電気工学科 理科大学院 進学予定

原 学 (大学院) 理工学研究科 応用物理学専攻 国土交通省 海上保安庁内定



平成23年度「国家公務員採用I種試験合格を祝う会」が11月22日(火)、神楽坂校舎で行われました。学長から合格者18人に、表彰状、記念品、後期授業料相当額の奨学金が授与されました。
式典では、山本亮太さん(理工学部建築学科4年・防衛省内定)が体験報告として、海外留学を通して日本への思いを再認識し、わが国の発展に貢献したいという志を持ったことや、公務員試験に向けた勉強方法、官庁訪問の体験談を述べました。
表彰学生の代表として、谷口奈津子さん(工学部第一部建築学科4年・文部科学省内定)からは、先生、学友をはじめとした大学関係者のバックアップに対する感謝や、大学で学んだことを生かし、誇りを持って仕事に取り組みたいという意気込みが述べられました。
次年度から国家公務員採用試験制度が変更になります。詳細は人事院から公表され次第、就職課(就職支援室)からお知らせします。
本学では公務員試験に向け各種支援行事を行い、公務員志望者を支援しています。就職課(就職支援室)では各種資料を豊富にそろえ随時相談に応じているので積極的に活用してください。



Event 2011.11

東京理科大学で開催されたイベントのニュースをお伝えします

**マラソンランナー増田明美さん講演会を開催
「何事にも勇気を持ってチャレンジしてください」**

11月25日(金)に野田キャンパスで、1984年ロサンゼルスオリンピック(ロス五輪)女子マラソン日本代表の増田明美さんの講演会がこうよう会後援のもと開催されました。これは、学生がさまざまな分野で活躍した方の話を聞くことで、広い視野を持った人になってもらいたいと企画されたもので、当日は学生をはじめ教職員や近隣の方々を含め多数の参加がありました。

増田さんは「自分という人生の長距離ランナー」というタイトルで、オリンピックや大阪国際女子マラソンでの自らの体験談を交え、スポーツの魅力、恥をかきことを恐れず何事にも勇気を持ってチャレンジすることの大切さを語りました。

参加した理工学部応用生物科学科4年の男子

学生は「増田さんの話を聞いて、さまざまなことにチャレンジしようと前向きになった。それらの体験をもとに視野を広げていきたい」と講演会の感想を話していました。



**葛飾区で科学の面白さ伝える
「みんなの理科大学」を開催**

11月27日(日)に亀有地区センター、かめありリリオホール(葛飾区亀有)で、「みんなの理科大学」が開催されました。

これは平成25年度の葛飾キャンパスオープンに向け、地域貢献および区民と大学の交流、理解促進を目的として本学と葛飾区が共催したもので、小学生の親子を中心に約1500人が参加しました。3回目となる今回は科学体験教室、秋山仁先生の講演会のほか、葛飾区に本社があるおもちゃメーカー・タカラトミーグループの協力も得て、人気のおもちゃの開発秘話や本学教員によるおもちゃの科学的説明を聞けるイベントも開催しました。

科学体験教室では、区内の中学生も講師として参加しました。初めて理科を教えたという中学1年生の男子生徒は「最初は緊張してうまく

説明できなかったけど、だんだん慣れた。人に教えるって難しい。でも、人に教えることで自分もよく分かったし、理科の面白さを再認識できた」と感想を語りました。



小林研究室 特別支援学校での体験授業

11月25日(金)、江東区の都立墨東特別支援学校で、工学部第一部機械工学科の小林研究室による、ロボットのデモンストレーションと試着などの体験が行われました。これは、障がいのある子どもたちに科学技術の面白さを知ってもらうとともに、将来に夢と希望をもってもらうことを目的に行われ、同校の小学生から高校生まで約30人と教職員、ご父母の方が参加しました。

前半は小林研究室開発のアンドロイドロボット「SAYA」と首都大学東京久保田研究室開発の「モビマック」の2台のしゃべるロボットが講師になって振り子の実験が行われ、子どもたちはSAYAとモビマックとのコミュニケーションに戸惑いを見せながらも楽しんでいる様子でした。後半は「マッスルスーツ®」や、アクティブ歩行者「ハートステップ」の体験が行われ、車椅子に乗っていた男子児童が歩行者を使い廊下を歩くと、周囲から歓声

が上がっていました。特別支援学校の田添敦孝校長は「効果にとっても驚いた。実用化され、一般に販売されるようになるととても便利になるだろう」と実用化に期待を寄せていました。



**科学の魅力を伝えるイベント
「秋のマドンナたち」開催**

11月20日(日)、野田キャンパスで「秋のマドンナたち」ResearchからProfessionalへが開催されました。

当日は天候にも恵まれ、女子中高生約60人の参加がありました。プログラムでは藤嶋昭学長による講演の後、本学女子大学生・大学院生と本学教員によるトークセッションを行い、理工系に興味をもったきっかけや現在研究している分野、サークル等の大学生活について発表が行われました。お昼ごはんを食べながらの交流会をさみ、午後には、女子中高生が理工系に興味を持ってもらえるよう、グループに分かれて工学系と生物系の実験を種類ずつ体験してもらいました。

参加した女子中高生からは「理工系に進みたいとあらためて強く感じました」「年代とも

情報交換ができ、良い経験になりました」「実験が楽しく、自分が研究している姿を思い浮かべることができました」といったコメントが寄せられ、充実した一日を過ごせたようです。



山口東京理科大学ニュース

年頭の言葉

“地域産業界のキーパーソン”育成へ向け、実践的な教育プログラムを推進

学長 塚本恒世



明けましておめでとうございます。昨年1年間を振り返ると、やはり3月11日に発生した東日本大震災のことに触れなければなりません。犠牲になられた方々に対して、深く哀悼の意をささげるとともに、甚大な被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。被災地の復興に加え、福島第一原発事故の問題もいまだ収束しておらず、予断を許さない状況が続くなど、解決すべき課題が山積しております。

山口東京理科大学では、このたびの震災の影響はほとんどありませんでしたが、決して対岸の火事として見るわけにはいきません。理工系大学として何ができるのか。自分自身で何ができるのか。一人一人が考えさせられる大きな契機になったのではないかと思います。

危機という言葉は、危険の“危”と機会の“機”の2つの意味があるといわれています。特に若い人には、今回の危機を教訓とし、気付きの機会として捉え、困難に立ち向かってほしいと願っています。

さて、本学では、大学の改革を着々と進めております。その一例を申し上げますと、文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」の一環として、ものづくり教育を効果的に実施するための組

織「ものづくり工房」を設置しました。この工房では、自動車を設計・製作するために必要な機器備品や消耗品、コンピューター等を整備しています。全日本学生フォーミュラ大会(学生による自動車の設計・製作を競うコンテスト)への参加を通じて、世界に通用する本物の技術者を育成することを目指します。その過程において、学生たちにはものづくりの楽しさや達成感を味わい、コミュニケーション力やチームで行動する力をしっかりと身につけてほしいと願っています。

また、地元小野田青年会議所とは地域の発展に貢献することを目的に、連携協定を締結しました。若手経営者から直接、地域の良さや素晴らしいことを学び、社会人としての心構えもご指導いただいております。さらに、「地域産業論」「リーダーシップ論」の科目を開講し、本学のスローガンである学生が「地域産業界のキーパーソン」へ成長するために、実践的な教育プログラムを着実に推進しております。外部の方々と協働しながら、教職員が丸となって学生の教育に全精力を傾けているところでもあります。

本学が、今年の干支「辰」にちなみ、昇竜のごとく飛躍するためにも、関係各位には、引き続きご理解ご協力をお願いいたします。

平成23年度山陽小野田市「女性の日」記念事業を本学で開催しました

平成23年度山陽小野田市「女性の日」記念事業が11月5日(土)、本学で開催され、市内の女子児童生徒および保護者を中心に約90人が参加。講演、講話のほか、キャンパスツアーを行いました。

講演の講師は、平成21年に本学を卒業後、佐賀大学大学院医学系研究科に進学し、現在、三和化学研究所で研究員として製薬関係の研究に従事している大田黒一舞さん。「私のこれまでにこれから」と題し、講演を行いました。

大田黒さんは講演の中で、「2人の兄と同じ本学で学んだ後、佐賀大学医学系研究科に進学でき、さらに学位授与式で、優秀論文奨励賞をもらうことができたのも、本学でしっかりと学力を身につけたからです」と、これまでの体験談を語り、参加者は熱心に耳を傾けていました。また、これから学問を目指す児童生徒に「人とかかわりを持つことで学ぶことがたくさんあります。出会うご縁を大切に、夢を捨てないでほしい」とエールを送りました。

山陽小野田市市長の講話の後、キャンパスツアーでは、本学の4人の学生がグループに分かれて、研究室や図書館やものづくり工房などの施設を案内しました。また、東京理科大学近代資料館所蔵のエジソン蓄音器「アンペローラ30型」の特別展示コーナーにも多くの参加者が集まり、とても興味深そうに眺めていました。



理科教員のためのリカレントセミナー(生物)を開催

10月22日(土)、本学生涯学習センター主催の「理科教員のためのリカレント・セミナー(生物)」を開催し、県内をはじめ、福岡、島根、佐賀などから中学・高校の理科教員20人が参加しました。

午前中の講話は、早川あけみ准教授が講師を務め、「生命科学と環境～遺伝子の不思議を探る～」をテーマに、心理テストを交えながら、遺伝子の不思議の一つであるヒトの心をコントロールする遺伝子の機能や、環境要因に関わる生体リズムと疾患との関係について解説しました。

午後からは、岩館寛大講師が講師を務め、「Polymerase chain reaction (PCR) によるAlu配列の増幅」をテーマに、応用化学実験室で4つのグループに分かれて実習。微量DNAから特定のDNA配列を増幅するPCRの手法を用いて、参加者全員が類の細胞からDNAを抽出し、ゲム個人差の検出を行いました。

最終の講話は、姉妹校である東京理科大学理工学部応用生物科学科の池北雅彦教授が講師を務め、「薬はなぜ効くのか」をテーマに、薬の働きや副作用、薬の研究開発や今後の展開に至るまで、詳しく解説しました。質疑応答では、参加者から質問が相次ぎ、とても熱心に聴講していました。

葛飾 Walk!!

Katsushika Campus Area

Vol.6 葛飾区亀有駅「こちら葛飾区亀有公園前派出所」トピックス

葛飾といえば、ご存じ「こち亀」。亀有駅前の「こち亀」スポットや話題のグッズを紹介します。

Topics 1

亀有限定両さんグッズ

貯金箱やストラップ、絵馬などが亀有駅周辺のみやげ販売店にて発売中。南口「伊勢屋」には両さんどら焼など楽しいお菓子も！



©秋本治・アトリエビーだま/集英社 ©秋本治・アトリエビーだま/集英社・ADK



Topics 2

こち亀 ゲームば〜く

アリオ亀有内のゲームセンターにはこち亀の世界観が完全に再現されています。派出所内の備品など細かい点まで工夫されており、こち亀ファン必見スポット！

Topics 4

葛飾区 中央図書館蔵書

京成金町駅から徒歩2分の好立地。こち亀全176巻(2011年11月現在)が揃っています！こち亀以外にも葛飾区ゆかりの蔵書が抱負にありますのでぜひチェックしてみてください。

Topics 3

こち亀 ラッピングバス

JR亀有駅と浅草寿町を結ぶ路線バス。ピンク色にラッピングされたバスには両さんや麗子などこち亀キャラクターが描かれています。3月末まで運行予定なのでお早めに。



こち亀 銅像コレクション
JR亀有駅周辺には、両さんをはじめ、こち亀のキャラクター像が全部で14体あり、街のオブジェとなっています。あなたは、何体見つけられるかな？



諏訪東京理科大学ニュース

年頭の言葉

より高い目標に向かって 跳べる年へ

学長 河村 洋

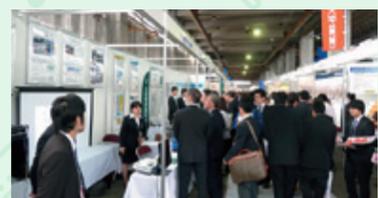


明けましておめでとうございます。昨年わが国は、大きな災害に見舞われました。本学は、幸いにして地理的にも被災地からは遠いために、直接の影響を受けることはなく、卒業式や入学式、その他の学事日程を例年どおり進めることができましたが、卒業生の就職や学生募集においては、その影響は、極めて大きなものがあります。このような中にあっても、昨年一年間を振り返ると、私たち日本人を励ましてくれる出来事もありました。それは、「なでしこジャパン」のワールドカップでの優勝です。彼女たちが、一戦一戦全力を尽くして勝ち抜いていく姿は、私たちの心を打ちました。大変失礼ながら、私を含めて多くの日本人は、このチームがこんなに活躍するとは、思っていなかったでしょう。しかし、彼女らは違いました。北京オリンピックでは、準決勝に残りながら4位に甘んじてメダルを逃し、大変悔しい思いをしています。その時、チームリーダーの澤穂希さんは、「メダルを取れたチームは、『優勝』を目指して、

その結果メダルを獲った。自分たちは、目標を「メダル」にしていた。だから次の試合では、優勝を目指そう」とチームメイトに言ったそうです。私たちも、この苦しい状況をバネにして、この新しい年を、教員、職員、学生諸君が力をあわせて、より高い目標に向かって高く跳べる年したいと思います。本学の状況においても、昨年は苦しいことが多かったのですが、明るい兆しもありました。申請していた博士後期課程(いわゆるドクターコース)が文部科学省から認可されたことです。本学にとっては、これは大学院を開設して以来の念願でしたから、その喜びは、大きなものがあります。しかしながら、この認可は、まだ第一歩に過ぎません。澤穂希さんも、その試合経験から、「大きな達成感の直後ほど、大きな危険が潜んでいる」といっています。心を引き締めて、博士後期課程を本学の使命である地域貢献に役立つものに、しっかりと育てていきたいと思ひます。

「諏訪圏工業メッセ2011」に出展

10月13日(木)～15日(土)、諏訪市の諏訪湖イベントホールで3日間にわたり「諏訪圏工業メッセ2011」が開催されました。昨年を上回る261の企業や研究機関が出展する中、本学からは渡邊研究室、市川研究室、五味研究室(奥原研究室、広瀬研究室、三代沢研究室共催)の3研究室と諏訪東京理科大学科学技術交流センターが参加。光合成促進等の太陽光エネルギー高度利用システム、小型人型ロボットによる長時間・長距離歩行、共同研究企業等との連携事業プロジェクト、NPO法人日本産業振興モデル造形振興会の協力によるクレイモデル製作実演などの研究発表を行いました。東京理科大学からも、科学技術交流センターから複合領域「知財群」創造的活用ネットワーク構築のほか、最新の産学連携研究紹介を行いました。3日間の来場者数は、25,928人と昨年を大きく上回り、本学ブースも活気にあふれ、盛況のうちに幕を閉じました。



「まだまだ、これから」2011理大祭

平成23年度の諏訪東京理科大学理大祭(理大祭実行委員会主催)が10月29日(土)、30日(日)の2日間の日程で、本学で開催されました。今年度は「まだまだ、これから」をテーマに、被災地支援のための応援メッセージ募集、ボランティアサークル「ボランティア」による岩手県大槌町の海産物の販売等の被災地支援の企画を実施しました。また、パンフレットと一緒に市内の飲食店を紹介する「てくてくマップ」を配布、地域に根差した大学をアピールしました。当日は、初日は晴天に恵まれましたが、2日目はあいにくの雨。しかしながら本学学生はもちろんのこと、地域住民の方々など多くの来場者がありました。理大祭実行委員会のメンバーは「震災からの復興は「まだまだ、これから」。学園祭を通じて一緒に頑張っていくというメッセージを伝えることができたと思います」と話していました。



保証人懇談会を開催

10月2日(日)に保証人懇談会が開催されました。懇談会には約290件、400人の保証人が参加し、学科別懇談会や個人面談で各学科の特徴や理念、学生の様子について話を聞きました。この懇談会は、本学の学生教育の参考にする目的で毎年開催しているもので、今年で7回目の開催になります。全体会では、

保証人からニーズの高い「就職」をテーマに就職支援アドバイザーによる講演を行い、その後、学科別に本学の現況や教務、就職状況等の説明、個別に面談等を実施しました。保証人らは自然に囲まれたキャンパスの様子を体感し、学生の様子や今後の進路等について熱心に話を聞いていました。



“理系”の頭脳で食卓のきずなを深める

熊谷真由美さん (料理研究家)

料理やお菓子づくりを通じて
和気あいあいとした時間を



熊谷真由美 (くまがい・まゆみ)
東京理科大学理学部第一部応用化学科卒業。パリの料理専門学校ル・コルドン・ブルーにて最高免状(グラン・ディプロム)取得。日本菓子専門学校卒業。パリのリッツ・エスコフィエ料理学校、ルノートル製菓学校、アカデミー・デュ・ヴァン本科・チーズ・ワインアカデミーなどで研鑽を積む。「タイユヴァン・ロブション」での勤務経験を経て、92年、料理研究家として独立。企業のレシピ開発や、書籍執筆、テレビ出演など活動の場を広げている。

「料理の“理”は理科の理……とことん理詰めの世界なんです」

“センス”や“試行錯誤”といったイメージで語られることの多い料理の世界にあって、熊谷真由美さんは異色の存在と言えるかもしれない。

小学生の時には家族のために魚をさばいて刺身を作り、学校では料理クラブの部長を務めるほどの料理好きだったという熊谷さん。料理と理科との結びつきは、当時から強く感じていたようだ。

「料理をしていると、理科の実験と同じような発見があって楽しかった。例えば野菜をゆでるとき、なぜお湯に塩を入れるのかが知りたくて仕方がない。いろいろ調べて『塩によって水の沸点が上がり、葉のクロロフィルが安定化して色よくゆであがる』と知って『なるほど!』と納得するような子どもでした」

大学では応用化学科へ進む。意外にも、当時の教授の教えが現在の仕事にも強く影響しているという。

「『実験は1回で終わる』が持論の先生でした。実験を行うときは、事前に文献調査を徹底的に行って仮説を立て、最も短時間で効率的に目的物が得られるよう、しっかり考えた上で実験に臨みなさいと。私は料理やお菓子を作るときに10種類以上のレシピを詳細に比較検討した上で“自分の分量”を決め、それから実際の料理に取りかかるんですが、学生時代に学んだ基本姿勢のおかげで、失敗したことはほぼないですね」

卒業後は担当教授の薦めもあって、電子部品メーカーTDKの開発研究所に就職。半導体デバイスの構造解析を行う部署に5年間勤務した。この頃、アフター5に同僚と通い始めたクッキングスクールが、後の熊谷さんの人生を大きく変えることとなった。

「当時、女性の総合職としては好条件の仕事だったし、研究内容にも不満はありませんでした。ただ、構造解析の作業は、一日中真っ暗な部屋で誰とも話をせず黙々と行う仕事なんです。その一方



熊谷さんが独自に開発した、プリントロールケーキの数々。繊細な色使いが特長だ。

で、人の笑顔をつくり出す料理の世界が、とてもあたたかく輝いて見えた……悩み抜いた上、『好きな料理を仕事にしよう』と決心しました」

現在は料理やお菓子の教室とレシピ本の執筆を中心に活躍する熊谷さん。身近な素材を華やかにヘルシーに調理する「おもてなしの料理&お菓子」が人気を集めている。テーマは“TEMPS CONVIVAL” (タン・コンヴィヴィアル=和気あいあいとした時間) だ。

「子どもの頃、私が料理を作ると、いつも父が褒めてくれました。『今日の盛り付けはおいしそうだね』とか。自分の料理で、大好きな人が喜んでくれることの喜びを皆さんにも伝えたい。人と人の心が通い合い、心のきずなが深まる時間……料理やお菓子作りを通じて、そんなひとときを演出するお手伝いができれば、と考えています」

TUSフォーラム
学内外の最新研究成果を紹介

11月1日(火)、ホテルメトロポリタンエドモントで、化学100年・超伝導100年・東京理科大学130周年を記念し「TUSフォーラム2011—科学は技術を拓き、技術は科学を深める—」が開催されました。

今回のフォーラムは、「東京理科大学ならではの研究成果の紹介と、「科学・技術」界リーダーによる講演に対する意見交換を通じた産学官交流の場の提供を目的として開催され、当日は学外・学内から多数の方が参加しました。第一部では本学教員による講演、第二部では塚本恒理理事長および藤嶋昭学長の講演の後、「科学・技術」界リーダーの方々による講演が行われました。藤嶋学長は講演の中で、今後の課題として「教養教育の充実」、「教育・研究の国際化」、「科学の普及」等を挙げ、

150周年に向けた抱負を語りました。今回のフォーラムでは、学内外の関係者が一同に参集し、意見交換を行ったことにより、今後更なる分野横断的連携研究の発展が期待されます。



総合研究機構フォーラム
2011を開催

11月20日、21日の2日間にわたり、総合研究機構フォーラム2011「Only in TUSを目指して」が野田キャンパスで開催され、2日間あわせて約400人が出席しました。

当フォーラムでは、各研究センター、研究部門、



社会連携プロジェクト、共同利用・共同研究拠点、研究機器センターの代表者および研究推進室メンバーから、最新の研究成果をはじめ、昨年のフォーラムを通じて共同研究に発展した研究成果、東日本大震災調査結果などが報告されました。報告に対する活発な意見交換が行われるとともに、各組織内でのテーマの明確な絞り込み・位置づけとそれに基づいた組織間連携の可能性が追求されました。講評では、福山秀敏機構長から、当フォーラムの総括とともに、現在、わが国が進められている新・元素戦略への言及もありました。

2日間にわたり、関係者が一堂に参集し、分野の異なる研究成果に接し、意見交換したことにより、今後の連携研究の発展が期待されるフォーラムとなりました。

理/窓/会/だ/よ/り

会長 山田義幸

4,100人が参加した
ホームカミングデー 2011

10月30日(日)、神楽坂キャンパスは薄日さず気温20度、無風の天候に恵まれ10時から続々と詰めかける参加者を迎え、3号館1階の受付を経て、9号館前のライブステージと学生模擬店へ、さらに3号館2階から3階の各種展示・実演・ミニ講演会へと終日人の流れが続ききました。

1号館17階での金美齡氏、森本健成氏、秋山仁氏の講演は満席でした。また、こうよう会本部行事として講演に先立ち学生懸賞論文表彰式が行われました。

2号館211教室の第3回坊っちゃん科学賞発表会は全国からの高校生102人、高校教員23人と審査員・聴衆でいっぱいになり、212教室の数学・授業の達人大賞も多くの教育界の皆さまが参加しました。

初参加の大学研究室紹介には理学部、工学部、理工学部、基礎工学部の23研究室が展示を行いました。

8号館とPORTA神楽坂に同窓交流の場を10会場設定し、1,200人を超す同窓が出会いを楽しみました。8号館1階食堂の卒業50周年記念祝賀会(150人)、PORTA神楽坂6階理窓会倶楽部の卒業20・30・40周年懇親会(130人)、PORTA神楽坂6階会議室の平成卒懇親会(50人)、8号館3階の6つの教室で6団体の懇親会(150人)、8号館2階食堂の同窓会出迎いの広場(700人)でした。

そのほか、落語会、キッズプログラム、お楽しみ抽選会など、さまざまなプログラムを同窓とその家族、こうよう会員、教職員の皆さまに楽しんでいただきました。



多くの人でにぎわう9号館前に設置されたライブステージ

物華天室

「ハリキリ」をご存じでしょうか? 「エゾリュウキンカ」はどうですか? 長万部キャンパスに来てから、もう25年が経ちます。人の多いところがイヤで、わがまま言って長万部キャンパスに来ることになり、北海道の片田舎、自然に囲まれた生活は、十分満足するものでした。長万部に来て驚いたことは、大学周辺にミスパショウが咲いていたことでした。周りを探せば、ザゼンソウが

あり、ミツガシワを見つけ、エゾサンショウウオやトゲウオがいるのです。10年ほど前から、自然に触れたり、物作りの経験が乏しい学生が少なからずいることに気付いていました。このようなことは、本来、子どものころに経験するものですが、現在、その経験のなさが、実験や研究に影響を与えているのではないかと考えています。林に分け入って見知らぬ草花を見つけ、感動し、模型飛行機を作るだけで、ナイフの使い方から飛行の調整法まで会得する。このようなことが、実験や

研究のセンスと結びついているように思えます。といって、大学生に、まさか今から自然観察や模型飛行機の作成を教えるわけにもいかないのですが、今の学生の不器用さは放置しておけない気がします。

文頭の「ハリキリ」は山菜のひとつで、タラの芽に苦みを加えた味がし、「エゾリュウキンカ」は「ヤチブキ」とも呼ばれる珍味で最近大学の近くで見つけました。春が待ち遠しいです。(基礎工学部 長万部教養 教授 藤井志郎)

入学試験期間中の
構内立入制限について

平成24年度東京理科大学各学部入学試験および大学入試センター試験の実施に伴い試験を支援なく実施するため、試験場となる神楽坂校舎、九段校舎、野田校舎および久喜校舎で、構内の立入制限が実施されますので、ご協力をお願いします。構内立入制限の場所・日時については、学内掲示およびホームページ等によりご案内します。

次号予告

- 新入生の皆さんへ 学長メッセージ
- 平成24年度予算について
- 新任教員・職員紹介

発行所

東京都新宿区神楽坂1-3
東京理科大学広報課
☎03-3260-4271
http://www.tus.ac.jp/